



コンビニ交付

ると考えている。

**問** マイナンバーカードで印鑑登録証をとれるようになったが、これは本市が独自に行ったものなのか。

**答** 独自のものではなく、既に全国的に制度化されたものである。

**問** 便利の裏には必ず危険が潜んでいると考えるが、今後、本市独自でマイナンバーカードに何かを盛り込むときは議会に諮るのか。

**答** マイナンバーカードの活用は、今後さまざまなことが想像できる。活用の際は、随時議会に報告したい。

一般質問  
竹森 衛  
(日本共産党)

来年度予算編成

**問** 来年度の予算編成の基本的な方向、考え方は。

**答** 行政評価の手法を活用しながら、PDCAのマネジメントサイクルを回すことで、事業の問題や改善点を担当者自身も分析・評価した上で、来年度の予算に反映させる。監査委員の意見書で常々指摘される事項は、財政の硬直化にも注意しながら、高齢化に伴う扶助費の伸び、今後の大きな事業の実施に伴う市債の増加も十分に認識して予算編成を進める必要がある。

**問** 「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の基本目標1から4に基づき予算措置をどう講じるのか。

**答** 財政運営は、重点的な事業を選択して予算を集中させる必要がある。4つの基本目標を強く認識しながら、実現に努めたい。

**問** 平成28年12月議会一般質

問で鳥獣の捕獲駆除について、「周辺市町村との連携を図りたい」との答弁だったが、具体的な進め方は。イノシシの出没地は学校や通学路もある為、何か起こってからでは遅いが、捕獲以外の対策は。

**答** 本市と高取町、明日香村の捕獲重点エリアが若干ずれしており連携に至らず、行政間で情報交換をしている。個別での捕獲に苦勞しているが、努力したい。28年度は、国庫補助金を活用して鳥獣被害防止対策協議会が、鳥屋町の山林に金網柵を設置し、鳥獣の被害が少し減少した。同年度には、出没の多い山林用に電気柵を購入した。29年度も電気柵を設置予定である。捕獲は、猟友会の高齢化などさまざまな問題が発生している。安心・安全な市民生活の保持のため、できるだけ対策を講じたい。

**問** 窓口での医療費を無料とする現物給付方式が、子育て世代を応援する制度の目的をより確実に果たせると考える。就学前児童を含む子どもたちへの制度改善の考えは。また、今後の県との協議の進め方は。

**答** 国の罰則がない就学前ま

でを対象に、現物給付化に向けた協議を県と県内市町村でしており、結果を見て、今後取り組みたい。

**問** 協議の周期は。総合戦略の基本目標3を具現化するの

**答** 約3カ月に一度程度協議しており、今年度中に方向性を出して、来年度か再来年度から実施したいとのことである。医療だけでなく、子育て支援施策を具体的に実行して、小さい子どもを安心して育てられる環境づくりの実現に努めたい。

介護保険制度

**問** 政府の介護保険「2017年改革」は、要介護度1・2の認定者に対する生活援助の回数制限、福祉用具の見直しなど、公的給付を外していく計画だが、法改定のもとで、第7期事業計画の進め方は。

**答** 要介護度2以下の認定者に対する生活援助の回数制限は、通常とかけ離れた回数の上位5%のケアプランに対して、市町村にケアプランの届

け出を義務づけることでプランの検証機会を確保するためであり、直ちに回数制限とはならない。また、法的給付を外す計画も方針は示されていない。第7期事業計画は、第6期事業計画の重点的な取り組みを踏まえて、3点を重点事項として掲げ、団塊の世代の全てが75歳以上となる2025年を見据えて、中長期的な視点で進めている。

**問** 今後の介護保険料の改定及び所得段階の拡充は。また、介護保険料の滞納により罰則が課され、介護から排除される仕組みの改善は。

**答** 第7期介護保険事業計画策定委員会で、平成30年度から32年度までの給付費の見込みを算定し、介護保険料の改定を検討中。所得段階の拡充は、低所得者の負担の軽減などの観点から、13段階に増やす方向で検討中。介護保険料の滞納による罰則は、納付者との負担の公平性の観点から、今後必要と考える。

**問** 次回の策定委員会で具体的に介護保険料基準額を決めていくのか。

**答** 次期計画の介護サービスごとの介護報酬の単価等の情